



学校だより

ひびき

令和3年4月7日

4月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

素敵な獅子ヶ谷小学校の児童

学校長 大塩 啓介

昨年四月に着任し、獅子ヶ谷小二年目を迎えます。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの対応に苦慮しそうですが、昨年度に引き続き、ご理解、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

昨年度、獅子ヶ谷小学校の児童には改めて感心させられました。月曜日の朝の放送でよく伝えていたのですが、獅子ヶ谷小学校の児童は、話をするとすぐに改善が見られます。下駄箱に靴をきれいにいれると気持ちがいいと伝えると、どんどんきれいになっていきます。今では、下駄箱の靴の並べ方は何も言わなくてもきれいにいれられています。また、姿勢を良くするためには、座っているときに足を地面につけるとよいことを伝えると、教室を回ったときには、多くの児童の背中がぴんと伸びています。年度末には、教室の整理整頓をしようと言っていると、ロッカーがあつという間にきれいになっています。そうした様子を見るたびに、獅子ヶ谷小学校の児童は素敵な子どもたちだなと感じました。声をかけると改善され、それを褒めるとまたさらによくなる。そして、それが定着につながっている。獅子ヶ谷小学校は、このようなよい循環になっていると思います。

家庭と学校では、児童の行動が違うこともよくわかります。家では言ってもすぐには変わらないというお声を聞きます。言うだけで変わるのであれば苦労はしません。しかも、家庭にあっては感情がぶつかり合います。いらいらする気持ちを抑えつつ、目の前の現状に多少目をつぶりながら、粘り強く、継続して話していくことが、一番の近道だと考えます。一呼吸おいて、感情を抑えつつ、「急がば回れ」と思いながら、児童の成長を見守っていくことは大切なことです。

また、ほめる材料がなくても、できたことを認めてあげるだけでもよいのです。「できたね」という一言を聞くだけでも児童は安心します。そして、それが次の行動への意欲となります。時には失敗には目をつぶりながら、できたことに対して承認・賞賛をしていくとよいです。それが、次のよい行動につながっていきます。もし、できればご家庭でもこうした「褒める」「認める」子育てを進めていただければと存じます。

釈迦に説法のような話ですみません。

素敵な獅子ヶ谷小学校の児童の成長を、今年度も楽しみにしています。